

2025 年度

国際政治経済学部 総合型選抜 I 期(英語資格型)入試

出題の意図・解答例

### 出題の意図

2025 年度の総合型選抜 I 期(英語資格型)の小論文では、昨今の情報通信技術の進展に伴い、世界中のユーザーとのコミュニケーションを可能にする SNS や動画コンテンツを共有できるソーシャルメディア等の国際的なプラットフォーム・ツールが、若者世代を中心に加速度的に普及している。こうした背景から、その利活用の実態や特定の習慣等について考察している稲田豊史著『映画を早送りで観る人たち ファスト映画・ネタバレーコンテンツ消費の現在形』の一部を抜粋し、課題文とした。

問 1 は、課題文の内容を十分に把握・理解した上で要約をする力を試す問題である。また問 2 は、課題文の内容を踏まえた上で、自身の考えを文章で論理的に表現する力を試す問題となっている。

### 解答例

問 1

倍速視聴に対する意見は分かれている。懐疑派は「内容が理解できるのか」と疑問視するが、推進派は「理解できるし、通常速度が遅く感じる」と反論する。これは、倍速視聴者の情報処理能力が高いということを示唆する。特に最近の映像作品は情報量が多く、若者はその情報量に慣れている。大学の講義も動画を倍速視聴する学生は多く、「効率的で集中できる」ためだ。

倍速視聴や短尺動画の普及により、若者の情報処理能力は向上している。ニュース番組や YouTube 動画でも倍速視聴が広がり、需要が高い。情報処理能力と作品鑑賞能力は異なるが、若者は非倍速視聴者とは異なる速度で映像に向き合っている。映像制作者はこの変化に対応する必要がある。

問 2

倍速視聴は、現代のデジタル消費の中で便利でありながら、その利用にはいくつかの面での考慮が必要である。まず倍速視聴の利点としては、限られた時間内で多くの情報やコンテンツを消化できることが挙げられる。例えば、学習や情報収集の場面では、短時間で多くの動画や講義を聴くことができ、効率的に学習を進めることが可能である。また、会議やプレゼンテーションの記録を後で再確認する際にも、倍速視聴は時間節約に寄与する。

一方で、倍速視聴には懸念もある。速度を上げることで情報の理解や内容の質が低下する可能性がある。特に専門的な内容や複雑なテーマについては、正確な理解を得るために情報を消化することが求められる。また、制作者の意図や表現のニュアンスが失われる場合もある。倍速視聴の一般化は、本来のコンテンツの品質や伝達されるメッセージが損なわれる可能性がある。

更に、倍速視聴の使用が普及することで、人々の集中力や注意力が低下する可能性も指摘される。速度を上げた視聴習慣が定着することで、通常速度での情報処理能力が低下するリスクがある。このため、適切な状況やコンテンツに応じた使い方を心がけることが重要である。